

組織目標評価報告書(2019年度)

23

部局名:

岡山大学病院

部局長名:

金澤 右

| 目 標 | | 目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組) |
|--|--------------------------------------|--|
| ①教育領域 | | |
| | 目標に関連する 年度計画の番号 | 教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 |
| 優れた医療人を育成するため、医療スタッフへの教育・研修の充実を図る。また、卒前臨床実習から初期臨床研修、更に後期研修へのシームレスな教育体制の強化及び地域の関連病院との連携を強化することにより、新制度や見直し案に対応した研修プログラムを充実させ、初期研修医と専門医の育成を推進する。国際面での人材育成としては、海外医療スタッフの受入及び研修を行う。 | 59-1 59-2 59-3 60-1 60-2 | <p>・卒後臨床研修センター医科及び歯科研修部門では、来年度からの初期臨床研修の変更に備えて、研修医の確保・指導体制の充実、協力的臨床研修施設との連携強化に取り組んだ。</p> <p>・卒後臨床研修センター医科研修部門では、オープンホスピタルやマッチング説明会を開催し、研修医獲得に向けた広報活動を継続して行った結果、マッチング公表ではマッチ率91%となり、2次募集で93%と高いマッチ率を維持することができた。</p> <p>・卒後臨床研修センター歯科研修部門では、卒後臨床研修説明会を開催し、研修歯科医獲得に向けた広報活動を行った結果、マッチング公表で昨年度と同じマッチ率85%となり、2次募集で92%と高いマッチ率を達成することができた。しかしながら、直近の2年間でフルマッチを達成できていないのは平成23年からの歯学部学生定員の削減が原因と思われることから、募集定員の見直しについて検証しており、次年度も引き続き検討することとなった。</p> <p>・卒後臨床研修センター医科研修部門では、研修医の指導体制充実のため、臨床研修指導医養成講習会を開催し、学内指導医を19名、協力的病院の指導医を18名、計37名増加するとともに指導の質向上を図ることができた。</p> <p>・初期研修での経験症例は一部専門医研修における専攻医の経験としても有効であるため、内科を中心とした診療科においては、初期から後期へ一体化を目指して研修指導を行なった。</p> <p>・医療教育センターでは、岡山大学病院専門医研修プログラムのホームページをリニューアルし、各研修プログラムの概要を紹介するなど情報を発信し続けるとともに、オープンホスピタルを開催し、専攻医の獲得に尽力した。さらに、本院で専攻医を希望する医師のニーズに応えられるよう、各プログラム単位でプログラム管理委員会を開催し、研修プログラムを充実させた。しかしながら、岡山県の専門医プログラムのうち、当初シーリングを予定されていた9診療科のうち、4診療科(小児科・耳鼻科・脳外科・放射線科)でシーリングが緩和されたものの、内科・精神科・麻酔科・形成外科・リハビリテーション科については、岡山県では依然として厳しいシーリングが設定されたままとなっているため、岡山県を通じて改善の要望を厚労省および専門医機構に対して行っている。</p> <p>・看護師特定行為研修について、指定研修機関として厚生労働省に承認され、8行為の術中麻酔管理領域別パッケージ研修及び15行為の外科術後病棟領域別パッケージ研修を開始することとした。このことにより、特定行為を行う看護師を育成・配置し、医師と連携をとりながらタイムリーな医療・看護を提供する体制が整った。</p> <p>・国際的な人材育成として、これまでに7名(うち医師4名、歯科医師3名)の臨床修練外国医師等に対し教育・研修を実施した。また、JICAと連携し、ベトナムから15名の医師・看護師・技師を受け入れ、外科手術の周術期管理に関する研修を実施した。海外への支援活動としては、医師を派遣した外科系手術支援を行った。歯科系では、ミャンマー現地での口腔がん検診支援を実施した。外国医師等の受入体制の強化としては、臨床修練指導医を院内で募り、臨床修練委員会において審査を行った結果、臨床修練指導医等が159名となった。</p> |
| ②研究領域 | | |
| | 目標に関連する 年度計画の番号 | 研究領域の目標の達成状況 |
| ARO機能の更なる充実を図るとともに、研究者への質の高い教育を継続的に実施することで、臨床研究・治験を推進する。また、臨床研究法の施行に併せて発足した認定臨床研究審査委員会において、主に中国・四国地方で実施される特定臨床研究の審査を継続して行う。橋渡し研究における研究拠点として、中国・四国地方を中心とした各病院のシーズの掘り起こし育成を行い、臨床研究、薬事申請へスムーズな移行を支援する。中国四国橋渡し連絡会等を通じて情報交換、連携を深め、拠点としての自立を目指す。 | 56-2 61-1 61-2 | <p>ARO(Academic Research Organization)支援件数は198件、医師主導治験に係る新規届出は2件であり、高い水準を維持しているとともに、認定臨床研究審査委員会については、4月～12月までに新規研究の審査を3件(岡山大学病院以外の施設が研究代表施設として実施している研究は0件)実施した。</p> <p>研究者への質の高い教育の実施として、臨床研究法に基づく特定臨床研究の研究責任者(PI)に対して、特定臨床研究に特化した教育・研修を行い、PI認定制度を設け、講義形式のみではなく、e-learningでも受講可能とし、研究者の教育機会を十分確保した。開催回数は9回で、受講者数(合計)73人、PI認定者数は46人であった(e-learningによる認定者も含む)。</p> <p>また、CMA-Okayama治験ネットワーク事務局における治験受託に関して、令和元年度からは、SMO(Site Management Organization:治験施設支援機関)2社の協力の下、多施設共同試験の円滑な受託に向けて手順や契約方法等の見直しを行っており、現在までにパイロット試験として3件の治験を受託している。今後も引き続き、他施設共同試験の受託も含め、治験受託数の増加を目指すものとする。</p> <p>さらに、令和元年度における橋渡し研究戦略的推進プログラム岡山大学拠点へのシーズ応募件数は144件(学外からの応募94件)であり、順調に増加した。このことに関連して、岡山大学シーズのデータベース構築にも着手するとともに、学内外の異分野融合シーズの掘り起こしについても取り組んだ。中国・四国橋渡し連絡会を12月に開催し、各アカデミアのシーズ掘り起こし・育成等に関する課題や成功事例等を共有し、連携を深めた。</p> |
| ③社会貢献(診療を含む)領域 | | |
| | 目標に関連する 年度計画の番号 | 社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況 |
| 地域医療機関との連携を強化するとともに、中核的医療機関としての機能を果たす。先進的かつ高度な医療(臨床研究・治験を含む)を安全に配慮しつつ、患者最優先で提供を推進する。また、次世代の術者育成を実施していくとともに、新たな先進医療の確立に努める。医療安全・感染対策の対応強化を図るとともに、医療安全や感染対策に関する講習会を実施し、医療安全管理の意識向上を図る。がんゲノム医療中核拠点病院として、引き続きがんゲノム医療の中心的な役割を果たすための体制整備を進める。 | 55-1 55-2 56-1 57-1 57-2 | <p>地域医療機関との連携強化に関連し、総合患者支援センター地域医療連携部門が中心となり、地域医療ネットワーク「晴れやかネット」について外来医長会等にて利用促進の呼びかけを行い、令和元年7月・11月に利用者ID取得のための院内講習会を実施した結果、公開件数は前年同期と比較して増加した。また、地域医療機関からのスムーズな診察予約の促進のため、診療科長等会議にて紹介時の制約の撤廃について協力を要請した。逆紹介率向上を目指した「かかりつけ医推進キャンペーン」、連携先医療機関の訪問による連携依頼および聞き取り調査、患者支援部門による逆紹介アシスト(紹介先相談、予約取得手伝い)を継続実施した。</p> <p>臓器移植医療センターでは組織運営会議のほかセンター職員によるセンター会議を毎月行い、最先端医療を安全安心に行うため、術前リスク評価を関連診療科を交えて行っており、また術後も移植後検証の意味も含め定期カンファレンスにて再評価を行った。また、今年度から開始した多職種回診などでも患者の安全確保に努めた。</p> <p>低侵襲治療センターでは、術者育成のための教育研修を4月と6月に2回開催した。腹腔鏡、胸腔鏡による内視鏡外科手術は安全に推進できており、その施行割合も高い水準を維持した。ロボット支援手術は肺縦郭、食道、胃、子宮、泌尿器で実施され、特に食道は日本で最多症例数と推察され、順調に実施できた。</p> <p>医療安全の新たな取り組みとして平成31年4月から配置している歯科医師ゼネラルリスクマネージャーを継続して配置し、実態把握のために歯科に関するインシデント報告を促した。毎週の医療安全ミーティングで歯科関連インシデントを含めて検討し、回避可能な健康被害発生を抑制するための対策に取り組んだ。医療安全および感染制御の職員研修は、平成28年度～令和元年度にかけていずれも受講率95%を超え、職員の医療安全・感染制御に対する意識は向上した。</p> <p>がんゲノム医療中核拠点病院として現在29の病院と連携した。</p> <p>また、今後本院との連携を目指している機関も含めて、月1回の連携病院等説明会を開催し、ゲノム医療に関する各機関からの疑問や要望に応えた。</p> <p>令和元年6月に2つの遺伝子パネル検査が保険収載され、連携病院から出された症例の解析結果を医学的に解釈するための多職種による検討会(エキスパートパネル)を毎週水曜日に開催し、今年度は1月末の時点で166症例を検討し、各連携病院にフィードバックした。令和元年9月には6つの連携病院が「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、これらの病院でもエキスパートパネルが開催できることとなったが、これまでの本院でのノウハウを活かし、これらの拠点病院へのサポートも行った。</p> <p>また、ゲノム医療に携わる人材の育成を目的にゲノム医療に関する多職種向けのセミナーを開催し(9月、1月)、看護師・薬剤師・臨床検査技師・遺伝カウンセラー・ソーシャルワーカーなど240名の参加者に対し勉強会を開催した。施設見学の希望にも対応し、延べ30名の見学希望者を受け入れた。</p> |
| ④管理運営領域 | | |
| | 目標に関連する 年度計画の番号 | 管理運営領域の目標の達成状況 |
| 経営戦略会議・執行部会議において、経営指標等について分析を行い、MBO(目標管理)を実施して各科の病院収益等の経営状況を確認・フィードバックし、病院経営の安定化を図る。医療材料や医薬品等の経費について分析・検討し、値引き交渉を行う等、コスト削減に努める。 | 62-1 63-1 | <p>経営戦略会議・執行部会議において、病床稼働率、外来患者数、診療費用請求額、診療経費、手術件数等の経営指標について検証・分析を行うとともにMBO(目標管理)の達成状況について、各科の病院収益等の経営状況を確認・フィードバックを行うことで病院の安定的経営に努めた。</p> <p>医療材料・医薬品については、値引き交渉等を行った結果、医療材料については、購入額(税抜き)で対前年度890万円(R01.12末現在)の削減効果、医薬品については、上半期(4～9月)対薬価額(税抜き)で4億3420万円、値引率(税抜き)11.85%の削減、薬価改定後の10～12月期で対薬価額(税抜き)で1億9860万円、値引率(税抜き)11.55%の削減効果を得た。</p> |
| ⑤センター・機構等業務 | | |
| | 目標に関連する 年度計画の番号 | 管理運営領域の目標の達成状況 |

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(4～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。